

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年4月16日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0390100063
法人名	有限会社 メルシー
事業所名	グループホーム メルシー長橋
所在地	〒020-0146 岩手県盛岡市長橋町3-47 (電話)019-601-1680

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成20年3月6日	評価確定日	平成20年4月16日

## 【情報提供票より】(平成20年2月15日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	9人, 非常勤 一人, 常勤換算 9人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	2階建ての	1階 ~	階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	555,000 円	その他の経費(月額)	その他実費負担 円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

### (4) 利用者の概要(2月15日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名	
要介護1		名	要介護2	2	名	
要介護3	5	名	要介護4	2	名	
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	79歳	最低	71歳	最高	91歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人啓愛会 孝仁病院
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは、岩手県交通のイオン盛岡店バス停又は下前淵バス停下車し徒歩10分、東北自動車道・盛岡インターチェンジから車で5分ほどで交通の便が良いところにある。道を挟んで川がゆったり流れ、岩手山など自然も見渡すことができ、近くには障害者施設や一般住宅、大型ショッピング施設などもあり、散歩時には往来する地域の方々との普段の交流も図られている。「自己満足にならないように心がけ、パートナーとして寄り添いたい」という職員の熱い思いに支えられ、利用者の笑い声が絶えない明るい雰囲気のあるホームである。改善はすぐ実行するなどチャレンジ精神が旺盛である。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)  初めての外部評価である。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回が、初回の評価ということもあり、ホーム長等から評価について職員に説明を行い、とりまとめた調査票について事前に回覧し共有している。その結果、「職員の顔が見えるように」との気づきがあり、職員の写真を玄関に掲示した。今後、外部評価の結果を得て、評価に関する勉強を行い共有する場を設けたいとしている。
	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、概ね2ヶ月に1回開催されている。内容は、外部評価や勤務体制等重要な事項の協議、利用者・行事状況報告、意見交換等となっている。委員から「ホームを地域の皆さんに広く知ってもらおう」という意見が出され、その意見に基づきボランティア受け入れのお知らせを近隣のコンビニなどに貼るきっかけとなるなど有意義な提言の場となっている。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 意見・苦情などは、面会時や運営推進会議の参加の際を利用して意見等を得るようにしている。現在、出された意見等はないが、今後も意見・要望等を大切にしながら、ミーティング等で話し合い、適切な対応に努めたいとしている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入して間もない。近隣とは、回覧版の回付や散歩の際の挨拶、ホームの理解を得るための広報回覧等を通して交流を図るほか、日本舞踊等のボランティアの訪問を受け入れて交流している。今後は、地域活動への参加、地域の中学校、保育園等との交流にも努めたいとしている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当時に定めた理念「ゆっくり、いっしょに、たのしみながら、一人ひとりのその人らしさを大切に」について、あらかじめ全職員で、この理念を事業所の理念として確認しあっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	共用スペースに「理念」を掲示するほか、毎日の申し送り時や、毎月の職員会議の際に理念にそった利用者のケア事例の検討を行うなど、全職員が理念を確認しあい共有しあって、ケアに当たっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入して間もない。近隣とは、回覧版の回付や散歩の際の挨拶、ホームの理解を得るための広報回覧等を通して交流を図るほか、日本舞踊等のボランティアの訪問を受け入れて交流している。今後は、地域活動への参加、地域の中学校、保育園等との交流にも努めたいとしている。	○	推進会議の意見等をいただきながら、地域の一員としてのホームと近隣との関わり方、交流の方策を検討されることを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が、初回の評価ということもあり、ホーム長等から評価について職員に説明を行い、とりまとめた調査票について事前に回覧、共有している。「家族等来訪した人が、職員の顔が見えるように」との気づきがあり、職員の写真を玄関に掲示した。今後、外部評価の結果を得て、評価に関する勉強・共有する場を設けたいとしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、概ね2ヶ月に1回開催されている。内容は、外部評価や勤務体制等重要な事項の協議、利用者・行事状況報告、意見交換等となっている。委員から「ホームを地域の皆さんに広く知ってもらおう」という意見が出され、その意見に基づきボランティア受け入れのお知らせを近隣のコンビニなどに貼るきっかけとなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の機会を通して情報交換を行うほか、普段は、電話等で相談・連絡を取り合っている。今後は、広報等の持参や相談ことは出向いて行うなど、より緊密な関係づくりに努めたいとしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	状態変化時はその都度、連絡を取り合うとともに、隔月の「家族だより」で利用者の表情を写真等で報告するほか、請求書送付に合わせて、居室担当者から「手紙」(手書き)による身体・生活状況をお知らせしている。金銭の預かりはない。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・苦情などは、面会時や運営推進会議の参加の際を利用して意見等を得るようにしている。現在、出された意見等はないが、今後も意見・要望等を大切にしながら、ミーティング等で話し合い、適切な対応に努めたいとしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員を固定化し、利用者との馴染みの関係を継続することを基本としているが、今後、止むをえず離職等異動があった場合は、他の職員のサポートなど、利用者のダメージを最小限に止める体制づくりに努めたいとしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修については、出来るだけ多くの機会に職員を派遣するほか、その結果についても、職員会議等で伝達し、共有しあっている。資格取得研修への参加についても、勤務体制等で配慮するなど、その支援に努めている。今後は、毎月1回程度、テーマを決めて、職員勉強会を実施したいとしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の定例会(県・ブロック)に参加して、勉強・交流を図っている。新年度は、先進のグループホームとの職員交流・交換研修を実施して、サービスの質の向上に努めたいとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に見学を通して、ホームの雰囲気を知ってもらうとともに、利用者の状況等も合わせて観察し、把握したうえで利用につなげることを基本としている。利用開始後も、出来るだけ在宅で使用していた物を持参するように促すなど、早期に慣れていただくための工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が、人生の先輩である利用者から生活の知恵や食事づくりのコツや段取りについて学んだり、畑作業等で利用者と職員が協働する場面を通して、気持ちの繋がりが深められ信頼、支えあう関係が築かれている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時の家族等からの聞き取り、普段の会話、表情等からの職員の気づきを通して、思いや意向を把握するよう努めている。更に、職員の気づきを共有するため来年度以降、センター方式を少しずつ導入することを検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントシートや、本人・家族の意見等をもとに全職員で話し合いをしながら計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的(初回は3ヶ月、次回から6ヶ月)に、また心身の状況の変化に気づいた時点で、随時、家族等と相談のうえ必要な見直しをしている。申し送りノートに利用者の状態変化の記録を行い、随時の見直しに役立てている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自宅への帰宅支援のほか、買い物やドライブ(雪祭りなど)、通院や外食への外出支援など、本人・家族の希望に合わせて可能な限り柔軟かつ臨機応変な対応を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望する主治医となっている。受診方法は、協力病院へは職員が同行し、それ以外は家族同行としている。その他、毎月1回、協力病院(院長)の往診をお願いしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制に関する指針を作成し、家族へ説明のうえ同意を得ている。重度化や終末期、看取りの取り組み方針について、職員間で確認しあっているが、具体的な経験がないことから、今後とも、重度化等への対応・支援方法については、継続的な話し合いが必要であるとしている。	○	重度化や終末期等への具体的な対応方法等について、常に職員間で共有されていることが大切であることから、継続的に確認・勉強の機会を設けられることを期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄や入浴時等の羞恥心への配慮については、常に心がけ注意しあうほか、勉強会などで言葉遣いや対応について確認しながら、ケアに当たっている。記録等個人情報については、利用者等から見えないところに保管するなど、その徹底に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れの中で、起床や朝食、買い物や公園等の外出など、声かけはするものの無理強いせず、常に利用者の思いやペースに沿った対応に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食べたいものや、皆で植えた野菜を使った献立を作るほか、食事の調理等準備、下膳・茶碗拭きや、片付けは、いつも利用者と職員が行い、食事も和やかに、皆で会話をしながら、介助なくマイペースで摂っている。なお、ご飯を多く食べたいという利用者の希望と栄養面を考慮し系こんご飯を提供する工夫をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、週3回、午後の時間帯が常態となっているが、希望する利用者には、毎日や午前等の入浴にいても柔軟に対応している。風呂には、高低差がつけられ、半身浴もできるように工夫されている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備から片付け、洗濯物干し・たたみ、清掃、畑づくり等の場面で、利用者一人ひとりが役割意識を持ち、買い物やドライブなどを通して、楽しんだり気晴らしをしながら生活をしている。特に、ホームの「運動会」(大いに盛り上がる)を行うなど、楽しむ工夫をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や毎日の散歩、ドライブや外食等、利用者一人ひとりの思いや希望に沿った外出支援を行うほか、畑仕事、ベランダでの外気浴など、屋外で気分転換が図れるように努めている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	常に気くばり、目配りを徹底することにより、鍵をかけないケアを心がけている。なお、一人で外出するときは、GPSを携帯してもらい安心と安全に留意しながら見守りできるよう工夫している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練(火災)は隣接の障害者施設職員の協力を得て実施している。開設して間もないことから、地域の協力体制づくりはこれからであるとしている。今後、防災のマニュアルを作成して、職員の自己訓練に努めるほか、災害ボランティアの協力についても検討したいとしている。	○	運営推進会議の意見等をいただきながら、火災のみならず地震等を含めた、防災への地域の協力体制づくり(災害ボランティア含む)を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量については、毎日記録するほか、利用者それぞれの状況に応じて刻み食などで対応している。水分摂取については、観察チェックでより気配りしているほか、利用者が好きな時に自由に飲めるよう麦茶を用意している。献立や栄養については、今後、栄養士からアドバイスを受けたいとしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには、塗り絵や花、テレビやテーブル、ソファや畳が配置され、家庭的雰囲気の中で、利用者が常に出入りできるようリビングと台所は一体的に配置され、折々に季節の行事なども行われ、居心地よく過ごせるように工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた鏡台や整理タンス・ベッドや家族等の写真などを、それぞれ持ち込んで思い思いに住まいできるように支援している。それぞれの居室のドアには、本人の好きな色で塗られた好きな花で縁取られた名前表示が女性らしさと居心地の良さを演出している。		